

# 気仙沼にアコーディオンを！ <後編>

勝俣 静雄



## 気仙沼湾を見下ろす高台の保育所

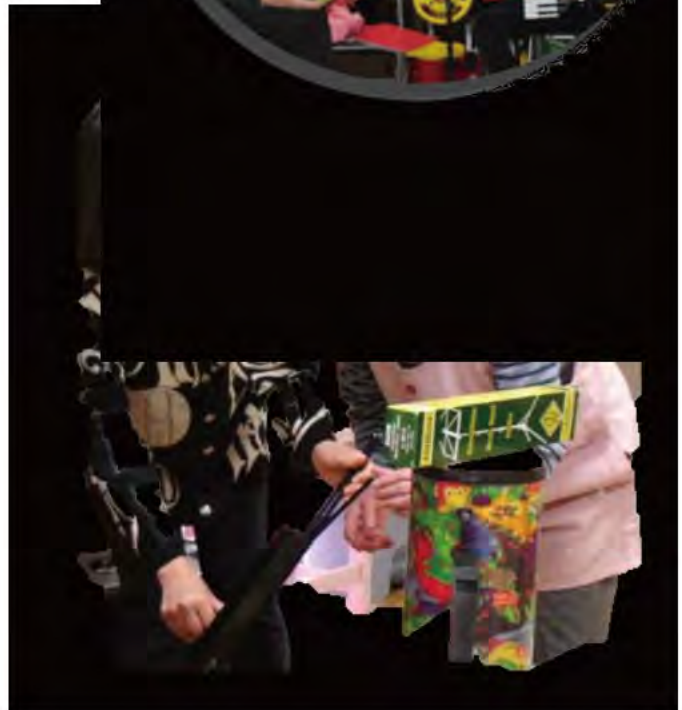
2台目のアコーディオンは、第二保育所へプレゼントされた。第二保育所は、陣山という気仙沼湾を眼下に見下ろす高台の景勝の地にある。

39人の園児がいて、5名の保育士を含む10人で運営されている。訪ねた18日には、午前から保育所のイベントがあり、その一翼を担ってアコーディオンの演奏会が行われた。卒業生も参加していて子どもたちはアコーディオンの演奏を心待ちしていたようであった。演奏会は、後藤さんの子ど気持ちをうまくとらえる絶妙な司会ではじまった。演奏のけ姫」、「リベルタンゴ」「こきりこ」「歓喜の歌」などであった。

「タンゴ」知っている？ダンゴではないよ、みんなの知っているのは、甘いたれのついたダンゴでしょう。ダンゴおいしいよね。タンゴは遠いアルゼンチンの民謡かな？ ではリベルタンゴを聞いてみてね。



もたちの曲目は、「もの





第二保育所では、毎週ピアノ先生による音感教育が行われている。今回あらたにアコーディオンが加わることになったのである。夕方急ぎよ、アコーディオンの講習会が行われた。所長さんと娘さんの他に、2人の保育士さんが居残っておられて、川口先生をはじめ有志の方による特訓が行われた。4人は大変熱心に受講された。第二保育所にアコーディオンがしっかりと根を下ろすと確信したという。川口先生のお話では、将来が楽しみで、気仙沼からすぐれたアコーディオニストの誕生も期待できるという。

第二保育所にはアコーディオンばかりでなく、ドラ



ム（子供用）、リコーダー、シェイカー、トークドラム、譜面台、練習用テキスト（3）なども寄贈した。こどもたちによる器楽合奏もできそうである。

## 息の長い復興支援を！

復興支援は、ただ一回だけではなく、息の長い支援が必要とされる。とくにアコーディオンの演奏レベルの向上には、定期的な訪問による講習も不可欠であろう。アコーディオンをお贈りしたからには、これからの息の長いアフターケアを、今から検討しておくべきだと思った。



今回のアコ今回のアコーディオンによる気仙沼支援に、コーディネートのお骨折りいただいた菅原雄治さんに厚く御礼申し上げます。「おひさま」と第2保育所の二か所の選定は、実に妥当な選定であったと思う。2月17日～19日の気仙沼訪問には、川口裕志先生、後平滯子、後藤広一、倉田美穂、高橋伸幸、菊地毅、霜島義和、勝俣友子、勝俣静雄の9名が参加した。

全行程1030kmの長距離ドライブを担当していただいた後藤さんには深く感謝申し上げます。

とくに往きは深夜ドライブにもかかわらず、不安感をまったく感じさせないすばらしい運転に賞賛の声がしきりであった。そして今回9名が全員健康で、無事に目的を果たして帰京できたのは、実に喜ばしいことであった。

みなさま、お疲れさまでした。